



あ、自分にもできる（親近感）活動があるかもしれない（興味・関心）参加してみよう（行動）
そんな会員向け通信を目指しています。



地域コミュニティ 参加のきっかけは自治会活動

きっかけは、自治会の役員を引き受けたことからと宮崎さんは語った。住まいは千葉県柏市のニュータウンで、現役時代はいわゆる千葉都民。定年後、次はあなたの番よと奥様に言われて仕方なく関わり始めた。最初は戸惑うこともあったが、夏祭りという大イベントに向かって全役員・サポーターの熱い心意気と一体感で地域の夏祭りを成功させた。これが地域活動の負担の大きさを上回る地域の多くの方との繋がりを得たと。

その後は、「まちづくりの推進」や、「コミュニティバス」導入計画にも参画してきた。現在は、地域住民の「通いの場」として20年続く常設型コミュニティカフェのボランティアとして接客をしているという。カフェは、全て住民のボランティア50人で支える組織。

リタイア後、地元のコミュニティにはいる第一歩をためらう会員も多いだろう。自治会活動から始める好例である。

談：宮崎泰雄（796）

◆ ◆ 私の推し街 連載 ◆ ◆



シニアもハッピー DX先進県大分

関根 千佳（1488）

夏は函館、冬は大分に住むのが老後の夢だった。どちらも温泉と山海の幸に恵まれている。

そして大分はネットの先進地でもある。95年の別府湾会議に招待されて以来、村井純、村上輝康、伊藤穰一など、業界リーダーの多くとここで知り合った。

臼杵市の「うすき石仏ねっと」では医療、介護、子育てにかかわる情報が行政イントラで共有されている。服薬履歴等が瞬時にわかるため、調剤薬局では多剤併用による薬害が防げ、救急車では救命につながる。

また別府市には日本初の「おくやみコーナー」がある。人が亡くなったときの手続きは複雑多岐にわたり、高齢の遺族には大変だが、別府では担当者がワンストップで入力すると、役所内の必要部署にデータが送られる。ユニバーサルデザインの IT なのである。

湯布院や別府のお湯に浸かり、関アジ、関サバ、臼杵のフグを楽しみ、医療や介護のシステムに守られ、死後まで役所が優しい。大分はシニアに最適な場所なのだ。



大分県臼杵市の眺め

撮影 関根千佳



本部便り

《イベントのお知らせ&報告》

・9月7日(日) 11:00~12:30 理科実験教室@JR 東海橋本施設 (JR 橋本駅)
小学校5・6年生向け(定員20名)に、地域活動の一環として理科実験教室「モーターを作ろう」が開催されます。一社 はてなボックス主催、相模の国倶楽部と連携し、理科実験グループが相模原市初の出前実験教室を開催します。

・8月5日「実家の処理に関する調査プロジェクト(仮称)」 キックオフミーティング開催
地域デザイン通信第4号・池上会員の「生家の再生」記事に対し、同じ課題を抱える会員の方々から多くの反響がありました。地域デザインに関わる問題として、地域デザイン総研内で調査プロジェクトが発足しました。皆様のご協力をお願いします。

問い合わせ先: ご意見、感想、お問合せなど下記までお寄せください。お待ちしております

dfchiiki-tsushin@directforce.org

編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

退職後、地元のコミュニティーに参加するきっかけは人それぞれ。最初にご家族に背中を押されたとしても、その後は持ち前の仕事術やコミュニケーション力を発揮して、しっかり地元にお根をおろす・・・ヒントがたくさんあるインタビューでした。(編集後記 M2)

地域デザイン通信 バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/>
ページの一番下までスクロールしてください。